

## 1 大矢部みどりの公園整備・運営事業Park－PFI基本協定締結

### 市長

本日、「大矢部オープンゲートプロジェクト」の皆様と大矢部みどりの公園の整備とその後の管理運営を行っていただく基本協定を締結いたしました。無事、今日の日を迎えられたことを、大変嬉しく思っております。本日は、今回のプロジェクトの代表企業である日比谷花壇さん、これまで横須賀市の公園事業にご尽力いただいている京浜急行電鉄さん、京急サービスさん、市内企業である三浦建築測量さん、丸孝（まるたか）産業さん、大神（だいじん）さん、さらには市外からも、ランドスケープデザインさん、ドットボタンカンパニーさんと、プロジェクトを構成する事業者の皆様にお越しいただいております。お忙しい中、お越しいただき、ありがとうございます。

今回のプロジェクトは、長井海の手公園ソレイユの丘、三笠公園に続き、民官連携制度を活用することで、Park－PFIとして新しい公園の整備と管理、運営を、一括で担っていただきます。そのため、事業者の皆様の創造力と専門性には大きな期待を寄せており、横須賀に、新たな息吹をもたらすものとして、この計画を、是非進めていきたいと考えています。

さて、公園の整備地となる大矢部弾庫跡地については所管する国に対して、これまで長年に渡り要望活動が続けてまいりました。その中で、この地の歴史的な経緯も踏まえ、軍転法の適用を認めていただいた結果、ようやく、昨年 3 月、無償譲与について国と合意することができました。私自身、このことに非常に感慨深い思いを抱いております。この地は、弾薬庫跡地という特性により、これまで開発から免れていたため、市街地にありながら、豊かな自然環境が多く残されています。また、三浦一族ゆかりの「やぐら」などの歴史資産も数多く残されており、この地は、まさに横須賀の、三浦半島のルーツと言える場所です。ご承知のとおり、三浦一族は、鎌倉時代前半に、三浦半島を拠点におき、ときに栄光を、ときに困難を乗り越えてきました。この歴史は、私たち横須賀市民の誇りであり、今も私たちのまちの精神に息づいていると考えています。私は、横須賀のまちづくりを担う市長として、三浦一族の偉大な功績、歴史、そして故郷を愛する強い思いを、次世代につなげていきたいと常に思ってきました。やぐらなどは、ただの史跡ではありません。先人たちの足跡が、今もその地に、確かに刻まれています。この大矢部みどりの公園を、まずは、三浦一族の歴史を学び、感じ、そして未来に向かって交流する場として、市民の皆様と共に大切にしていきたいと思っています。

その他、公園の大きな特徴としましては、自然に囲まれた公園の景観に馴染むよう、木造で約 1,000 m<sup>2</sup>の大屋根も整備し、雨の日や猛暑における子どもたちの遊び場の確保や、地元の農産物や加工品などを扱う地域マルシェ、そして子ども向けワークショップなど、様々な活動や交流の場にしたいと考えています。また、災害時には物資配送拠点としての活用も想定し、市外からの支援物資の集積・一時保管・避難所等への配送などを担う機能を備えます。その他には、谷戸が持つ静寂と自然に包まれた空間を活かし、座禅・ヨガなども行えるマインドフルネステラスの整備や、農業を中心とした、季節の移ろいを感じ、収穫の喜びを分かち合える田畑エリアも整備します。また、計 5,000 m<sup>2</sup>と、広大な芝生広場では、周辺を気にすることなく、思い切り体を動かし、ピクニックなどでのんびり過ごすなど、子どもから大人まで、多世代が一緒になって楽しむことができる場も作ります。それらの機能を公園に盛り込むことで、大矢部みどりの公園を通じてコミュニティづくりや交流を支え、誰もが自然や歴史に親しめる唯一無二の場所になることを目指しています。そしてこの公園から、横須賀の誇り、三浦一族の想いを、全国へ発信してまいります。市と事業者が一丸となり、大矢部みどりの公園をより良い場所にし、皆様と共に、横須賀市の新しい未来を築いていけることを楽しみにしています。本日は誠にありがとうございます。私からの挨拶は、以上です。

#### **株式会社日比谷花壇：宮島 代表取締役**

このたび、横須賀市大矢部みどりの公園Park-PFI事業の認定計画者として、地元企業3社を含む8社の共同事業体、そして2社の協力企業と共にご採択いただきましたこと、心より感謝申しあげます。本事業で私たちが掲げるコンセプトは「MEZAME VALLEY(メザメバレー)」です。86年間閉ざされてきた大矢部の谷戸の地から、豊かな自然、歴史、そして新たな価値が「目覚める」ことを意味します。この事業を通じて、横須賀市様が目指す「人と人、人と自然や歴史をつなぐウェルビーイング・プレイス」の実現に貢献してまいります。

大矢部は市の中央に位置しており、本対象地は広大な自然に囲まれ、三浦一族の史跡という歴史的資源も有する、可能性に満ちた土地です。私たちはこのポテンシャルを最大限に活かし、人々が心身と共に健康になり、「生きる力」を育める新たな活動拠点として創造してまいります。

谷戸に囲まれた静寂な環境を活かしたマインドフルネス施設、多様な使い方ができる広大な芝生広場、災害時には物資配送拠点となり、日常では子どもたちの遊び場となる大屋根、生きる力を養う農業と学びの空間、そして循環を体現するカフェやレストランなど、様々な機能を整備してまいります。当社は2022年より長井海の手公園ソレイユの丘のPark-PFI事業認定計画者および指定管理者として管理運営を行っており、本事業ではソレイユの丘をはじめ、市内各施設との連携も積極的に図ってまいります。

この大矢部の地を、市民の皆様と行政と協働で「育てる」、横須賀市の未来を紡ぐ「重心」とするため、共同事業体および協力会社で一丸となって邁進していく所存です。

どうぞよろしくお願いいたします。

#### **京浜急行電鉄株式会社：杉山 取締役常務執行役員**

まずは、横須賀市の新たなシンボルとなる「大矢部みどりの公園」プロジェクトに参加させていただきましたこと、横須賀市様をはじめ関係者の皆様方に心から感謝を申しあげたいと思います。そして、今回ソレイユでも一緒させていただいている日比谷花壇様をはじめ地域のことを熟知された地元企業の皆様方と一緒させていただけるということで、チーム横須賀として必ずや大きな賑わいを創出できるものと今から非常にわくわくしています。

さて、京急グループでございますが、我々、経営計画達成のためのエンジンといたしまして、沿線価値共創戦略といったことを掲げてございます。これは鉄道やバスといった移動プラットフォームをMaaS（マース）でつなぐこと、さらには沿線のアセットをエリアマネジメントでつなぐこと、こちらが相互に価値を提供し合いまして、その相乗効果によりまして、沿線価値を最大化していこう、このような考え方でございます。

そしてこれはもちろん当社グループだけでできることではなく、行政の皆様方、地元でご商売をされている方々、さらには地元にお住まいの皆様方、こういった方々と一緒をさせていただくことにより、達成できると考えているところでございます。そうした考えのもと、今回このプロジェクトにも参加をさせていただければと思い、このプロジェクトを成功させるために、私たちはグループの総力を挙げまして、3つの役割を担ってまいりたいと考えております。1つ目は、多くの方々に足を運んでいただけますよう、大矢部の魅力を京急沿線広域に発信していきたいと考えております。2つ目は、バスによりアクセスの確保はもちろん、シェアモビリティなど様々な移動手段の提供などによりまして、来園しやすい環境を整えていきたいと考えております。そして最後、3つ目でございますが、こちらはグループの一員でもございます京急サービスという会社、こちらが長年培ってまいりました技術やノウハウを活かしまして、設備の維持管理や環境保全、こういったもので貢献できるのではないかと考えているところでございます。市民の皆様方がお越しいただいて、やっぱり横須賀って良いよなって思っただけのように、さらには市外の皆様方が何度も足を運んでいただきまして、横須賀に住んでみたい、そんな風に思っただけよう地域の一員として共に汗をかき共に育てていくつもりで事業の方に末永く取り組ませていただきたいと思います。

#### **■質疑応答**

##### **記者**

三浦一族ゆかりの遺跡についてお伺いします。現在、「深谷やぐら群」「円通寺跡」は文化財指定などされていますか。

**横須賀市：建設部長**

市の埋蔵文化財包蔵地として指定されております。

**記者**

今後、この開発が進むにつれて文化史跡ということで、さらに調査や研究を進める計画はございますか。

**横須賀市：建設部長**

これまでも調査は行っておりましたが、国指定を目指してこれからも進めていきたいと思っております。

**記者**

そのことについて、なにかスケジュールなど決まっていることがあれば教えていただきたいと思います。

**横須賀市：建設部長**

特段、決まっているスケジュールはありませんが、これから皆様と活用方法を探りながらどういうものが一番ふさわしいのか検討してまいりたいと思います。

**市長**

横須賀のアイデンティティのために、想いを実現できる、ようやく国から軍転法で返ってきた土地です。横須賀は、ここからもう一回始まると考えていて、熱い想いをお伝えしました。質問をしていただければと思います。

**記者**

京急さんからも細かく説明ありましたが、それぞれの2社の方が冒頭説明された内容の資料、ペーパーを持っていられただけませんか。

それから、市に伺います。この文化財が、どういう文化財なのか、よく分からないので教えてください。また、市長に伺いますが、その軍転法の絡みで、これが昨年3月、無償譲渡された、その経過を教えてください。軍転法のどういう経緯で、譲渡してもらったのか。

**副市長**

今の一連のことは資料でお渡しします。

**記者**

全体の土地スペースはどのくらいですか。

**横須賀市：建設部長**

平地で約4haです。

**記者**

まずは三浦一族のゆかりの地であることをPRしていく、PRの仕方はどのように考えていますか。例えば教育施設を造るなど考えはありますか。

**市長**

いろいろな考え方がこれから始まるのですが、元々、横須賀は、近現代史しかクローズアップされていませんでした。しかし、実は、三浦一族が存在していたという事実があります。戦争のあった時代に接収されたために空白の時代が続いていた土地です。本来、三浦半島の歴史は三浦一族から始まったと思っています。ご承知かと思いますが、会津若松に渡った子孫たちが、伊達政宗に滅ぼされるまで約400年も会津の地を治めていました。三浦一族は、三浦半島から出発してかなり日本

全国に広がっていったという事実があります。その検証ももちろん同時にしていかなければならないと思っています。まずは三浦半島の歴史は三浦一族から始まったと市内外にお示しすることによって、もう一度、横須賀のアイデンティティを作りあげたいという思いがあります。

戦前、戦中を通じては海軍のまち、基地のまち。ペリー来航のときには横須賀製鉄所を含めて、開国のまちということが定着していますが、実は三浦一族の発祥のまちなのだと。歴史の中で鎌倉時代から登場し、先駆けて日本全国の様々なところに散らばっていきました。その三浦一族の誇りのようなものを、この地で皆様が楽しむことによって、様々なウェルビーイングを含めて多くの方に来ていただいて、その思いを共有していただきながら、横須賀の新しい発展の礎、拠点にしていきたいと思っています。ある意味では、サンクチュアリのようなイメージを個人的に持っています。その思いを告げて、軍転法でこの土地を返していただいた経緯があります。まさにここから、横須賀をもう一度出発させたいという思いです。

#### 記者

大屋根の広場は、雨が降ったときに子どもたちの遊び場になるという説明でした。かねてから横須賀は、雨が降ったら遊び場、居場所がないので、それが欲しいという声があったかと思います。実際に、ここでは雨天時に子どもたちが集まってどんなことができるのか、どんなことが楽しめるのか、具体的なことがあれば教えてください。

#### 横須賀市：建設部長

先ほど市長の説明にもありましたが、子どもたちの遊び場であるとか、例えば地域でマルシェを行う、ワークショップを行うなど、様々な活用を考えることができます。また、災害時の物資配送拠点としても、重要な役割を担うと考えております。

#### 記者

大きさとしてはどのくらいでしょうか。

#### 横須賀市：建設部長

大きさは約 1,000 m<sup>2</sup>です。遊具は今のところ固定式というよりは、可動式のようなものをイメージしております。

#### 記者

三浦一族関連で質問です。近くにゆかりのある寺院があると思います。市としてルートミュージアムの計画など、それらを繋いでいくようなプランはあるのでしょうか。

#### 横須賀市：建設部長

考えております。大矢部みどりの公園はその拠点になる場所だと考えています。

### ■案件外質疑応答

#### 記者

ウインドサーフィンワールドカップが無事終了しました。今回 38,000 人の来場者がいらっしやっただと思います。その割には、レースの成立が今年も少なかったように思います。以前、春先だったのが、風の問題で、秋に開催時期が変わったと思います。それでもここ何年か成立するレースが少ないと感じています。さらに風の少ない時期に変更など、お考えであればお聞かせください。

#### 市長

本当に悩むところでして、この時期が一番良いと想定して開催したわけですが、それでも無風な状態が続いたというのは、本当に残念です。

#### 副市長

世界ツアーの中でどこに組み込むかというところです。本当は、今回よりも少し前に持ってきたかったのですが、中国大会との関係でずれたというところでした。もう1、2週間前だと横須賀は比較的风が強いので、来年はそのあたりに持って来られるようにこれから交渉していくと既に計画を立て始めています。

#### 記者

小泉防衛大臣のSNSをチェックしていたところ、市長が防衛省に行って小泉大臣とお会いしたとのことでした。大臣に就任してから、お互いに会うのは初めてだったとのこと、小泉大臣も上地市長と会うとほっとするというような投稿をされていました。あらためて、お会いしてどのような話をされたのでしょうか。立ち話なのか、雑談で声かけしたのかなど教えてください。

#### 市長

雑談というよりも、頑張っている姿を見て嬉しく思っています。防衛大臣になって初めて会ったときも一生懸命頑張っている姿を見て、防衛大臣として、まさに横須賀を代表して、横須賀をバックに出ていると思っていますので、是非頑張ってもらいたい、いつも応援しているという話を伝えました。

#### 記者

小泉防衛大臣がアメリカ国防長官と会ったときに、スカジャンをプレゼントされていました。市長もたびたびスカジャンを着て外に出られていると思いますが、スカジャンをどんなふうに発信していきたいと考えていらっしゃるのでしょうか。世界的に広めたいなどありますか。

#### 市長

もちろん、これからも様々なところにスカジャンを着ていきたいと思っています。公式にどの場面で着ていくかは、自分の中でもまだ整理ができていないのですが、できる限りスカジャンを着て、様々な場面に登場していきたいと思っています。

#### 記者

首相の存立危機事態発言以降、日中の関係が非常に厳しい状況になっております。横須賀市での影響や、市長の世相へのご所感みたいなものを教えていただいてもよろしいでしょうか。

#### 市長

国の問題に口をはさむことはできないと思いますが、今は、横須賀では問題にはなっていないと思っています。冷静な判断をしなければいけないと思います。横須賀はどうあるべきだということについては、いつも言うように、日米との強いつながりに、私としては何ができるか、それを考えていければと思っています。

#### 記者

この間、米海軍の作戦部長とも会談されました。政府機関の閉鎖で渡米できなかったという背景もあったと思いますが、実際会っていかがでしたか。

#### 市長

日本をすごく大切にいただいています。日米の絆をしっかり守っていただいていることに感謝したい、ホスト役に感謝申しあげるとおっしゃっていただきました。これからも引き続き日米のために何ができるかを自治体の長として考えていきたいという思いは、非常に伝わったと思っています。

そして横須賀が、市民がどういう姿勢で米軍と向き合っているかということに、非常に好意的に思っていていられることがよく理解できました。今後も引き続きしっかり絆を高めていきたいとお伝えしております。ある意味では、本音の会話ができたので安心しております。

#### 記者

盛り上がった会話はありましたか。

## 市長

盛り上がったのは（エリック・）クラブトンを、是非歌ってもらいたいと最後に言われました。また、大谷選手の話でも盛り上がりました。なかなか冷静沈着な方で素晴らしい方だなと思いました。

## 記者

GNF-Jで夏に続いて、また火災が起きました。市は夏に申し入れられて、その回答をいただいているうちに、また起きたということで、今回も申し入れされると思いますが、まず回答はあったのでしょうか。幸い二度ともボヤ程度で済みましたが、一步間違えれば大変なことになりかねないと思います。あらためてどうお考えかお聞かせください。

## 横須賀市：市長室長

一回目の市からの申し入れについては、先週末、報道機関の皆様にもメールを送らせていただいたものを正式な回答として受け止めております。こちらにつきましては、先週、横須賀市役所に事業者の社長様が来られて、説明を受けて受領をしたところです。また二回目の火災につきましても、書類ではございませんが、その際に中間報告ということで報告をいただきました。こちら、いわゆる機器等の故障ではなく、やはり作業、人的なミスと言いますか、エラーがあったと説明を受けております。二回目の火災の要因につきましても、今、作業を止めながら、徹底的な原因究明の洗い出し、点検をしているとのこと。安全な状態で作業が再開できるよう、今、点検、チェック作業を進めていると中間報告を受けております。

## 市長

それが即、大きな事故につながるというものではありませんが、大変申し訳ないとお話がありました。これからは鋭意、安全管理に努めてもらいたいという話を続けていきたいと思っています。

## 記者

人的ミスであったとの説明を遺憾としているのでしょうか。

## 市長

遺憾だと伝えています。

## 記者

その後、二度目の火災に対する市の対応はどうだったのでしょうか。

## 横須賀市：市長室長

市としましては、火災の対応ということで消防に通報があり、至急、消防隊が駆けつけております。それ以降の対応については、ご承知のとおり、いわゆる原子力災害等に関する所管官庁は原子力規制庁ですので、そこに適切な報告がいつているものと承知しております。しかし今回の事象はそこまで至っていない、放射線の漏洩がない火災でしたのでそこまで至っていないものと承知しております。市としましては引き続き事業者との防災協定に基づいて、とにかく市民の安全安心のためのあらゆる対応をしていただきたいと申し入れをさせていただいています。11月5日の火災についても、すぐ申し入れをいたしました。その段階では、まだ一回目の火災に対する回答がない段階でしたので、先ほど市長が申しあげたとおり大変遺憾であるということと第二回目の火災についても早急な原因究明と対応策の徹底、それを市にあらためて正式に回答することをお願いしております。

## 記者

最終報告のとき、社長が訪問して、市長に説明するということになりますか。

## 横須賀市：市長室長

それはこれからになりますけれども、これまでの対応を見ますと社長が来てくださると思います。

**記者**

市長にもお願いしたいのですが、その場を、公開してもらわないと何がどのように行政と進んでいるのか全く分かりません。一部の町内会長さんたちに連絡がいったと聞きましたが、あれだけ周りに住民の方がたくさんいらっしゃるのに、どう対応しているのか、公開していただきたい。

**市長**

公開は先方との兼ね合いがあります。きちんと説明していただいて、それを皆様にお伝えします。

**記者**

公開できないのであれば、その日のうちに、伝えていただきたい。

**市長**

できる限りその日のうちに説明させていただきます。おっしゃる意味はよく分かります。ただ、公開は先方のこともあり難しいと思うので、必ずその日に説明させていただきます。

**記者**

日産関連でお伺いします。先日、追浜工場の 160 人分の業務を維持する決定がなされたとのことで、具体的に残す部署などが挙がったと思います。それに対する市長の受け止めをお聞かせください。

**市長**

流れの中でこのようになったというようにしか捉えていないのですが、できる限り、雇用の問題、それから経済的な問題に関しては日産さんに申し出をしています。ただ、やはりこれは日産さんの問題なので、いたしかたないものもあります。その流れの中での一つだと思いますので、できる限りそれに対応できるように私たちも考えていかなければいけないと思っています。

**記者**

本日、デフリンピックの女子バスケ決勝があり、横須賀出身の選手 2 人が出場します。先日、壮行会もありました。市長は音楽をされるので、耳に関してはとても敏感だと思います。デフリンピック、今日まさに 15 時から決勝ですが、所感をお願いします。

**市長**

加藤姉妹の活躍は、すごく嬉しく思っていて、是非頑張ってください。障害がある方が、制約を乗り越えて様々なことに挑戦する姿は本当にすごいことだと思っています。そのような方たちに希望を与えてもらえるように 2 人には頑張ってください。横須賀にとってこれほど幸運なことはないと思っています。応援はずっと続けていきたいと思っています。